Spotlight on the team.

クリーン・ファイターズ
【関東社会人1部】

まもなく開幕するトップリーグ（TL）。チーム数が昨シーズンまでの12から14へと拡大され、全国部からなる、日本最高峰の闘いに期待が高まっている。

工場内で昼休の時間。でくれた弁当を、自分の机の上で、或いはお昼休の図書コーナーに

トレーニングはコーチの指示によどみなく進む。短い練習時間と有効に使う時間が凝縮

敷地はグラウンドの半面で中学生のクリニック会開催。地域貢献は日々の活動に深く組み込んでいる

DATA FILE
- チーム所在地／山梨県山梨市
- 会社名／2002年（1986年創部／1992年）
- 部員数／29名
- 昨年度成績／関東社会人2部にて全勝優勝、入替戦では1勝の位（最下位）のラインに敗れるも、リーグの再編成により昇格が決定
- グラウンド／東京急行電鉄沿線・山梨工場内
- サイト／http://www.tosen.com/rugger.htm

TLの発足に伴い、関東社会人はその下部に位置するトップイースト（以下、TE）に昇格されるとともに、1部のそれぞれ1チーム枠の降格チームとなった。日本一を目指すためのTLに昇格、TEに1部からイントリーフーズが繰り上がり、トップノースからの降格があり、1つの空席が生まれた1部に、2部から1チームが昇格することが決まったが、チーム・レベル・観客動員数などを考えたときに、チーム・レベルでは昇格基準を満たしたのが山梨に拠点を置く「クリーン・ファイターズ」である。

この様々な厳しい条件を満たせるのは、産業廃棄物クリーニング業界の総合メーカーとして知名度の高さを持つ東京都港区に本社を構える社会人クラブチーム。

「もともとは、ある社の業務用ユニフォームをクリーンにするためのスポンサーとして、社員の中から選抜されたメンバーが集まって、ラグビーを始めたというきっかけがあります。」と、当時の経緯を語る。

そんな経緯を経てきたのは、トーセンの総務部長兼、そしてクリーン・ファイターズの初代監督でもある日高正七氏。（35歳）。彼らの練習場は、トーセン山梨工場、約1万3千坪の敷地の奥にある天然芝のグラウンド。仕事帰りやスーツをジャージに着替えたラグビーマンたちが、夕ぐれどきの中で、ミニマムトレーニングに励んでいる。

社名が表に出ず、本社を東京都目黒区に構えるトーセンが、関東社会人の頂点であったTEを目指すことから山梨への移転であった。TEを目指すとなるとは、工場開設の予定地となった山梨市には高校ラグビーの名門・日川があり、日本代表として活躍した宮島（元日川監督）や、現在ではNTT（ナンバー1）や、長きにわたり名選手を輩出している。関東地区には新鮮みの強い土地柄であった。

そんな地域性から、地元関東社会人の中堅どころ、ラグビー部が創設された。94年には関東社会人4部に加盟、昨年度（99年）には関東社会人3部に昇格、翌年に1部へ昇格するも、1年で降格。以後は2部に低迷してきた。昨年度は天皇の前頭と、地域での活動を広げるためにクラブ化に踏み切ったのは98年のこと。現在関東を拠点としたブルーシャークスを本拠に、クラブ化への条件である「現在の選手の支援が約束されていること」「チーム名から企業のお名前を外すこと」「地元・地域に貢献すること」などをクリーン・ファイターズが満たした。

「入ってくるのは、しっかり身にて、ラグビーを知りたい、という選手ばかりです」と日高監督。現在の部員は29名。ほとんどが山梨の出身者である。半数以上を占めるトーセン社員のほか、近隣の金融や学校で働く者ときどきまざれが、監督の言葉通り、仕事とラグビーの両立は大変。

文／早川亜耶子　写真／菅原 淳

白への挑戦。

関東学院大と合同のミーティングの様子をリポート。1度で不敗（1）の強い魅力は

現在、どちらにも妥協はしない。

工場で働く選手たちは、通常8時から17時半までが勤務時間。もちろん残業もある。仕事が長引くことから夕の練習で働くメンバーのことを考慮して、練習開始は20時、1週間のうち、4日はグラウンドでの練習を、2日はウェイトトレーニングを行うハードなスケジュールだ。また、トーセンの名古屋や横浜の支店に勤務する者も、地方の企業に勤務を続て選手は週末のみチームに合流、合宿は年に3回あるが、1日6時間で、1泊2日が第一段という厳しい状況でもある。

そんな環境にも、「仕事、練習っていうは活力、最初は辛かったけれど、慣れてしまったエネルギーで、職場の人も応援してくれているし、仕事にも、試合にいんだな、ってサポートしてくれたりする。そういう気持ちに応えないと」と、若手を務めるもと千葉出身正年（28歳）。東京都出身後輩の新小名と名乗る月30日、東京都から山梨学大へ進んだ、生粋の地元選手。高3の時にはオール山梨に選出されている。

一度は郷外に出て、Tチーム就職したのはTE所属選手（31歳）。大学卒業後にTEでプレー、その後出身に戻って教員免許を取得、現在は甲府市内で教員免許を取得、ラグビー部を指導する傍ら、自身も現役を続行中だ。稀にはあるが、Lの名前（みたい）まず（35歳）のように、工場で働く社員に誘われてラグビーを始めたという者もいる。共通するのはやはり、仕事とラグビー、どちらにも真っ直ぐに挑む姿勢だ。

ベテランでも、1年のうち半年ではTEで勝ちを手繰り寄せるためのライオンを相手にはロー44と敗れた。リーグの再編成という名目に惑まれてTE部でのプレーが実現するが、入替戦での敗戦を忘れてはいない。

「ディフェンスをしっかりして、ウチらしい、ロースコアの試合に持ちこみたい。すごいいい相手がいることは覚悟しています。レベルの高いチームとの試合で、一歩ずつ力をつけていきたい。まずは1勝、そしてTE昇格が目標」と、日高監督は先ほどと目標にする「ったれのトップイースト進出」のために意気込みを固めていくつもりだ。

昨年度は「相手が強くても、とにかくいつでも強くなりたい」と、部員一人ひとりが自覚に目ざしたチーム、勝てないんです（笑）。とにかく強いから、勝つためにはたくさん練習をしないと、だけど、みんな社員、ひたむきに頑張るほうなんで。」

部員は真剣なるが、気持ちは楽しく勝ちたい。そのために、自分たちのペースを作ります。

月曜日に開幕する1部でのシーズン。仕事とトレーニングの両立、日頃の成果を試すような真剣な試合で、トーセンのクリーニング機器をアピールし、社員は「日」ごとに成長の一歩を踏む、一つ一つの日常。